

2012年度森泰吉郎記念研究振興基金 研究成果報告書

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

後期博士課程

内藤寛子

森泰吉郎記念研究振興基金申請研究題目

党国体制における制度化と体制移行の可能性

-中国共産党の人民法院の制度化と専門職業化に対する措置に着目して-

報告書

本年度、森泰吉郎記念研究振興基金をいただき研究活動を行うことができた。当初、台湾と中国大陸への現地調査を計画していたが、秋学期以降仕事を始めた関係からまとまった時間が取れなかったため、日本で行える研究のために支出をすることにした。具体的には、博士論文の議論の枠組みを構築する作業に必要であった書籍の購入と、1月3日から6日にかけて行った台湾での調査である。

博士論文の議論の枠組みとして、「権威主義体制がなぜ維持するのか」という問題意識を基に先行研究の整理を行った。これまで権威主義体制の維持に関する研究は多く行われており、事例として取り上げられる地域は中国だけに限らず中東諸国やラテンアメリカなど数多くある。その中でも、とりわけ政治参加に注目した先行研究を参考にした。なぜなら、自身の研究が注目する司法機関は市民が政治に参加する一手段と捉えることができるからである。

そしてまさにこの点が研究の新規性でもある。つまり、これまでの先行研究は権威主義体制下における司法機関の機能を指導者が指導される者に対して政策を実施する際に指導者が用いる機関であると考えられている一方で、自身の研究が注目するのは、それだけでなく指導される者が指導者に要望を伝えるために使う機関でもあるということである。

自身の研究は、このような点に注目したため、政治参加に関する先行研究、権威主義体制の維持に関する先行研究、権威主義体制下における司法機関の機能に関する先行研究を参考する必要があった。今年度の森基金はこのような先行研究の資料収集のため使わせていただいた。

また、1月3日から6日に行った台湾の調査は以下のような日程で行動した。

1月3日	台北到着→政治大学国際関係図書中心にて資料収集
1月4日	政治大学国際関係図書中心にて資料収集
1月5日	台北大学図書館にて資料収集、大学周辺の古書市にて資料収集
1月6日	帰国

今回、森泰吉郎記念研究振興基金いただいたことで、恵まれた環境の中研究活動を送ることができた。本当にありがとうございました。今後も森泰吉郎記念研究振興基金によって得ることができる機会を有意義に活用し、研究を進めていきたい。